

公園のカーちゃん



私が育てたカラスの赤ちゃん

V

石下郁子

- 1、 目次
- 2、 カーちゃんはこちら
- 3、 公園にいたカーちゃん
- 4、 カーちゃんのひとりごと
- 5、 公園、5, 6日目のカーちゃん
- 6、 無事でいて！

8月13日

カーちゃんに来るかどうかは分かりませんでした。朝、餌と水だけは畑に持って行きました。昼ごろ、畑と我が家の中間ほどの距離にある神社の杜のほうから、よく似たカラスの鳴き声を聞いたと夫が言っていました。

カーちゃんの声はどのカラスとも違う特徴があります。カラスの子どもは大人のカラスのように『カア、カア』または『ガア、ガア』と続けては鳴けません。

ハシボソガラスのカーちゃんの場合は、ガーア、ガーアと濁った声で、少し間をおいて鳴きます。

鳴く声は同じ子どもでも微妙に違います。きょうだいの見張りガラスはドスの利いた声で、ガーア、と鳴き、ほかのきょうだいは途中で、人間に育てられたカーちゃんは、ハシボソガラスの中では比較的高音でガーアと鳴きます。夫が昼間聞いたのはきっとカーちゃんに違いないと思いました。

夕方少し早めに神社のそばを歩いて畑に行ってみました。

昨日、カラオケ屋の前の電柱にいたカラスがカーちゃんだとしたら、もう畑には来ないのではないかと思いました。でももしかしたらという希望は捨てきれません。

畑につくと、今朝がた置いた餌のところに、ときどき見かけるのら猫がいて、餌を食べています。たらいの水はそのまま、今日カーちゃんがかここに来なかったことは明らかでした。

カーちゃんは昨日たぶん、この猫に襲われたのです。水浴びか何かをされていて、とっさには逃げられなかったのです。それであんなふうに羽を傷め、畑に姿を見せなくなりました。

当然そこにいる猫を追いましたが、カーちゃんのことをなかつたら、きっとこの猫の身の上が、私の悩みになっていたはずです。その猫を追う、複雑な気持ちでした。でも今はカーちゃん、カーちゃんを捜さなければなりません。それで急いで畑を出ました。

さっきは周囲を見渡したただけで通ってきてしまいました。声がしていたという神社のあたりを捜してみようと思っていました。

神社から100メートルほど離れたところに、特定郵便局があります。郵便局の裏手は竹林や林の緑地帯になっています。そばに高い鉄塔があります。

自転車をこぎながら周辺を見回していた私の目に、その鉄塔のてっぺんに1羽の小さなカラスがいるのが見えました。カーちゃんだと思っさに思いました。

カーちゃんはいつの間にあんな高いところで遊べるようになったの、しかもこんな早く見つかるなんて、と喜び勇んで鉄塔の下まで行こうとしたとき、鉄塔と神社の間にある民家の屋根の上で子どもを見ているらしい親ガラスが2羽いるのが目につきました。

おどろく間もなく再び鉄塔の上を見ると、さっきは1羽だけだと思ったのにもう1羽のカラスが向こう側にいて、カーちゃんだと思っカラスと同じように、飛んだり跳ねたりの動きをして遊んでいるのです。それから間もなくどこからかもう1羽のカラスまで飛んできて加わりました。

喜んだ分だけがっかりして身体中の力が抜けました。それはカーちゃんのきょうだいたちで、少し離れた屋根の上のから見ている親に見守られながら遊んでいるのです。子どもは3羽しか確認できませんが、きっと4羽でいるのだと、もう確かめる気力もなくなってしまいました。かわいそうなカーちゃん。

でも 気を取り直して神社のほうには行かず、昨日カーちゃんらしいカラスを見たカラオケ屋や電器店の近くに行ってみることにしました。

国道に出ると電器店の屋上に今日もたくさんのカラスが集まっていました。そこへさらに2羽、3羽とあちこちから飛んできます。集団で来るカラスもいます。屋上は見る間にカラスでいっぱいになりました。

あんなにたくさんカラスがいても、カーちゃんはある中にはいないだろう、でも、とほんの少しの期待を持って、自転車を走らせました。

そばまで行くと、電器店の手前のビデオショップ前の電線に、小さなカラスが止まっているのが目に入りました。そしてそこから何メートルか離れたビデオ店の屋根の上に、体をせわしなく動かしているもう1羽の小さなカラスがいて、それは間違いなくカーちゃんなのでした。

カーちゃんは体がかゆいのか、傷めた羽を整えているのか、いつでも一生懸命羽をなめながら体を動かしているのです。それでどこに止まっても他のカラスのようにじっとしていません。だからすぐわかります。そんなカーちゃんのそばにいるのは、あのきょうだいの見張りガラスです。

さっき鉄塔のそばではっきり確認したのは3羽まででした。きょうだい鉄塔の上で遊んでいたのも、4羽そろっているとと思ったのですが、1羽はここにいてカーちゃんの動きを見ていたのです。

さらに電器店の屋上のみんなから少し離れた処には、早くもカーちゃんの親らしいカラスが止まっています。はっきりはしませんがきょうだいらしいカラスもいるようです。カーちゃんは何も気付かず、羽づくろいに夢中です。しばらくその様子を見ていました。

ほかのカラスが様々な動きをしても、カーちゃんを見張りガラスはそのままです。親もカーちゃんと電器店の屋上の間に止まったままです。ふとこの光景を写真に撮っておきたいと思いました。

それで思い切って自宅までカメラを取りに行くことにしました。家までは自転車で往復、5、6分の距離です。まだ明るいし、間に合うかもしれないと思ったのです。

家に帰り、カメラを手にして通りに出たとき、電器店の屋上から、たくさんのカラスが北の空を目指して飛んでいくのが見えました。ここから2、3キロ離れたところに広大な森があって、カラスはそこに帰って行くようです。

私がさっきの場所に戻ったとき、カーちゃんたちはもうもとの屋根や電線の上にはいませんでした。予測していたことではありました。でもカーちゃんがこの周辺にいてくれたことだけで十分でした。

私は電器店の屋上にいるカラスが次々に北に向かって飛んでいく様子を眺めていました。夕暮

れに、カラスがねぐらに帰っていく、これは私たちが子どものころから、それよりももっと以前から変わらない光景だと思って見ていたのです。

その時突然ガーア、という聞き覚えのある声を耳にしました。驚いて声の方を見ました。

国道の東側には電器店やカラオケ屋、ビデオショップなどが並んでいて、西側には住宅や大小の公園がいくつもあります。ビデオショップの道路を挟んだ西側は遊水地を兼ねた小さい公園になっています。カーちゃんはその鉄柱の上にはいました。わずか20メートルしか離れていないところで鳴いていました。



カーちゃんはこのところで鳴いていました。

公園にいたカーちゃん（26）

8月13日

カーちゃんは私が分かったのだと思います。

この時私がいた国道脇の歩道は公園よりは高い位置にあって、カーちゃんがいる場所に行くには目の前の土手を降りるか歩道を下って行くかして、いずれにしても公園を回り込む形でしか行くことができません。

私はすぐにカーちゃんのいるところに行きました。



カーちゃんは鳴きながら、鉄柱を降りてすぐそばのスレートぶきの家の一階の屋根部分まで来ました。しかしそこで体を動かしているだけで私のそばに降りてこようとはしません。

餌がなかったので、家まで取りに行くことにしました。ここまでくれば自転車で2、3分で往復できます。

餌を持ってくると、カーちゃんはそのから動いていましたが、幾分私の家の近くまで来ていて電柱に止まって鳴いていました。

私が名前を呼び、カーちゃんが答え、また名前を呼びカーちゃんが答えるといった繰り返しました。

薄暗いことも手伝ってか、その場所に慣れないのか、餌を見せても鳴くだけで下に降りてこようとしません。

電柱の上のカーちゃん、道路に立ってそれを見上げている私。なんだか自分たちが『ゆうづる』のお通と与ひょうのような気がしました。

この日とうとうカーちゃんは私から餌をもらわず、西の山の方に飛んで行ってしまいました。

8月14日（月）夕方、水と餌を持って畑に行きました。カーちゃんはやはり来ません。

帰りながら昨日の公園に行ってみました。電気店の屋上にはカラスが集まり始めていました。その様子をカメラに収め、しばらく時間をつぶしていましたが、カーちゃんが来そうにもないので、あきらめて公園の外に出ました。

そこから見える我が家の方角に、電線に止まっている1羽のカラスがいるのが見えました。

カーちゃんかと思ったとき、不意にすぐそばで鳴き声が出て、どこからかカーちゃんが飛んできました。そして自転車の前かごのふちに止まりましたが、やはり羽はボロボロになっています。

タッパーに入れた餌を下におろし食べさせました。カーちゃんは肉、卵焼きは喜んで食べ、水も飲みましたが、他のものはあまりほしがりません。



その後 公園内を少し歩き



近くにあったパーゴラの上に乗って遊んでいましたが、どこかおどおどして回りの様子を気にしています。





家の近くにいたカラスなのか、カラスが1羽ゆっくりと飛んで来て近くの家の屋根に止まりました。

カーちゃんの様子ばかり見ていたのでいつもの見張りガラスかどうかは確認できませんでしたが、カーちゃんはどうもそのカラスが気になるようです。隠れたりするのです。

その時犬を連れた男の人が声をかけてきました。犬か人かそれともそばに来たカラスを恐れたのか、私とその人と短く言葉を交わしている間に、カーちゃんはどこかに飛んで行ってしまいました。

さっきのカラスもいつの間にか姿を消していました。

カーちゃんのひとりごと（27）

8月15日

夕焼け放送に少し遅れて昨日の公園に行くと、カーちゃんはもう来ていて、私を見て大声で鳴きながら飛んできました。大分前から待っていたのか、パーゴラの下はカーちゃんが落としたりらしいフンがたくさんありました。

この日、卵とパンと水を持って行きましたが、卵は喜んで食べるもののパンはあまり食わず、水も飲みません。こういった形でか、他で食べ物を口にはしているのは確かなようです。

公園をちょんちょん歩き、パーゴラの上、公園のフェンスと飛び移りながら遊んだあと、すぐ近くにある学童保育の屋根に乗って遊んでいました。そこでしばらく遊んだあと、もう再び下には降りてこず電柱の上に。そこでもしばらく遊んでいました。

昨日、飛んで行った方向を確認できなかったのも、どの方角に帰っていくのか見届けたいと思い、カーちゃんの姿がよく見る場所へと移動して見ていました。

ややたってから、やはり西の山の方に飛んでいきました。そこはカーちゃんが生まれたとみられる所です。

親と一緒にいる様子は見られませんが、やはり自分の生まれた山をねぐらに選んだのです。

そんなカーちゃんに、親かきょうだいが食べ物上げたのか、それとも自分で見つけたのか、あまり空腹でなかったことをよかったと思いました。

何か大きなアクシデントでも起こらない限り、生きていくことはできそうだと安堵したのでした。

8月16日

5時半過ぎ公園に行くと、カーちゃんはいませんでした。やがて鳴きながら飛んできました。

この日も肉、卵のみ食べて他のものは食べません。水はたくさん飲みました。

ただ喉いっばいに食べ物を詰め込み少し離れた場所に置く、というこれまでしなかった仕草を初めて見ました。それを繰り返しています。

さあ何をして遊ぼうか、羽はこんなだけ元気ハツラツ。

お母さんボク（ワタシ）の顔よくおぼえていてね。これが最高のポーズだ。



あっ いいモノ見つけっ。何が入っているのかな。



<A

カラッポらしい、..... でもいいや、これであそぼう。



公園の近所に住む人が来て、カラスが昼間ずっと来ていて公園で遊んでいたと話してくれました。パーゴラの下に、カーちゃんのものらしいフンがあったのでそれと分かりましたが、ずっと待っていたようだという話を聞くとやはり切なさを覚えます。カーちゃんがいつまで公園に来るか分からないと思い、この日もカーちゃんの写真を撮りました。そのうち犬を連れた人が来て声をかけられました。聞かれて私がカーちゃんの話をした後、その人はご自分の仕事の話がされました。

さんざん遊んだ夕暮れはどこかものさびしいなあ、今夜はどこにかえろう

か



不況で会社がワーキングシェアを導入し、休むように言われ会社を休んでいるいると話していました。話を聞きながらも気になるカーちゃんでしたが、西の家の屋根に飛び移りしばらく遊んだあと、やはり西の山の方に飛んでいきました。仲間から教わったのか、口いっぱい食べ物詰め込んで、ものかげに持って行くカーちゃんを見たのが、この日の新しい発見でした。

やっぱり高いところは気持ちいい。地球の果てまで見わたせるよ



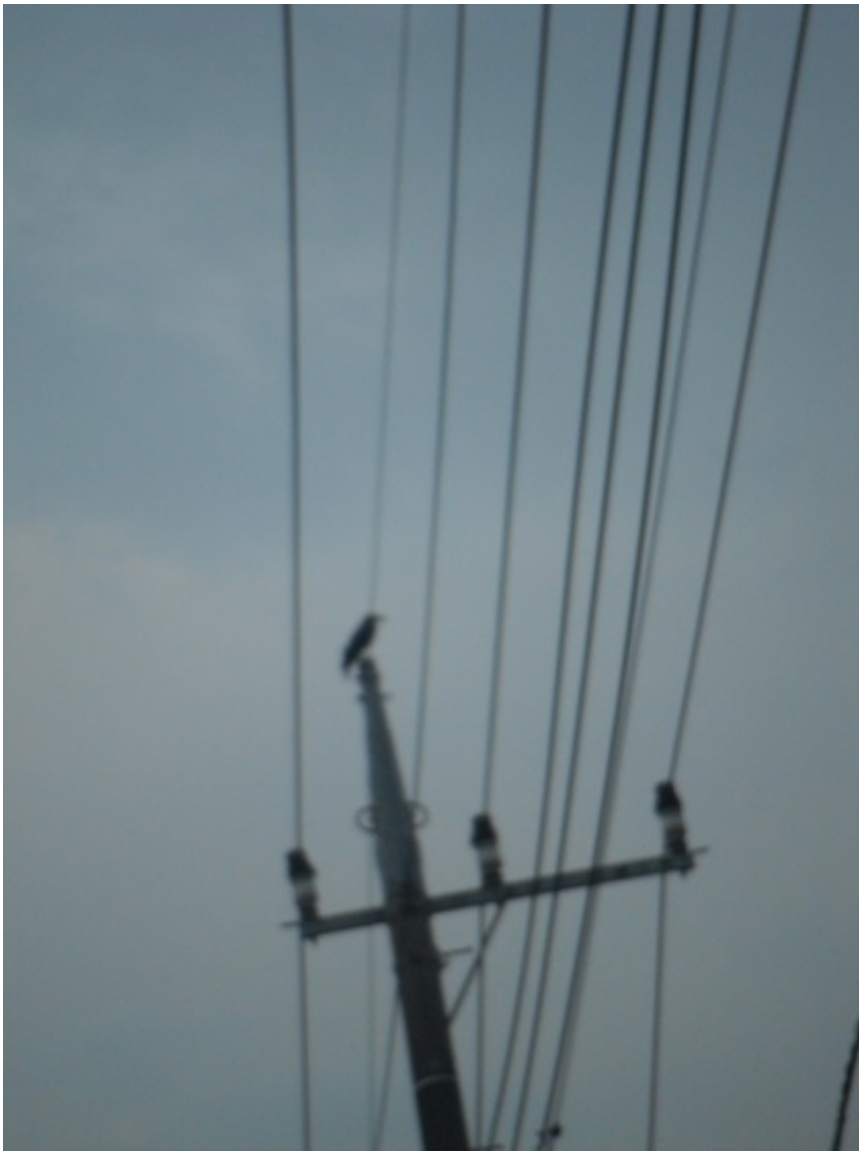
ボクのおうちはこの向こうなんだ。木がいっぱいあるところ。でも一番最後に行くんだよ。
コワイカラスが来るからね。



だいぶ暗くなってきた、でもまだ早いかな。もう少し遊んでいよう。



もう大丈夫かな。そろそろお山へ帰ろう。



このあと西の山の方へ飛んで行ってしまいました。



...

.....カラス去って 空に電線

残りけり

公園5、6日目のカーちゃん（28）

8月17日

5時少し過ぎて公園に行くため電器店前の交差点に差しかかったとき、私を見つけたらしいカーちゃんがサーッと飛んできて肩に止まりました。他のカラスも一緒だった様子です。意外でした。

公園で餌をあげるとこの日も肉だけを食べ、小さくちぎってあるパンのかけらを喉いっぱいに入れ、別のところに運んでいます。明らかに仲間から教えられた行為のようです。

その後フェンスで遊んでいたのので近づいて手を伸ばすと、もう私の手には乗らず、かえって差し出した手の指を思いきり噛んできました。

痛さはありませんでしたが初めての反逆です。そのあと、パーゴラの上に載って遊んでいました。

さっきから公園東側の、ビデオショップ近くの高圧電線に2羽の親ガラスが止まってこちらを見ていました。畑の時は見慣れた光景でしたが、この公園に来てからは初めてです。



カーちゃんが畑にいた時から、親ガラスはこんなふうに並んで様子を見ていました。最初は騒いでいましたが、それが子どもをおびえさせると知って、途中から見守るだけになりました。

この時、1羽のカラスが公園を低く横ぎり、すぐ西横の住宅の屋根に飛んで行きました。そしてこちらを見ています。

すると親と思えるカラスが公園の北側へと位置を変え、さっきのようには並ばず、別々のところでやはり様子をうかがっています。西側の屋根にいたカラスが再び公園を低く横切り、さっき親ガラスが止まっていたケーブルより下の（低圧）電線に止まると、カーちゃんは初めてこちら側でガァと声をあげました。そして今しがたカラスが移った電線の斜め下まで飛んで行きました。それからすぐにそこを飛び立つと、斜め上にいたカラスはカーちゃんのあとを追って行き、2羽とも建物の陰で見えなくなりました。

この日公園に来たカラスは3羽です。屋根に上りカーちゃんにアプローチしていたのは、親ガラスではなくきょうだいの見張りガラスだったと思います。

そのカラスは自分のあとを追ってきたカーちゃんのあとを、更に追って行きました。

この日はカーちゃんを巡って3羽のカラスが別々の動きをして、カーちゃんもまた意外な動きをしたため、それぞれの行動をうまくつかめませんでした。

ただ分かったことはカーちゃんのはっきりした意志を持ち、仲間の方に飛んで行ったのでした。

8月18日

しかし仲間のところに飛んで行った翌日、カーちゃんは羽をさらにボロボロにされて、公園に姿を現しました。

前日のいきさつから、もう来ないのではないかと思いながら公園に行きました。

カーちゃんは来ていませんでしたが、公園東側のビデオショップの屋根に1羽のカラスがいて、しわがれた変な声で鳴いています。

間もなく羽を傷めたカラスが、公園の西側の家と家の間を低く飛んで来るのが見えました。カーちゃんだと思いましたがなぜか公園には入ってきません。

ややたってそばに来ましたが、カーちゃんの羽は前日よりもっとひどく、ボロボロになっています。

ビデオショップの方を見るとさっきまで屋根にいたカラスはいつのまにかいなくなっていました。カーちゃんはどうやらそのカラスから隠れていたようです。

昨日から今日までの間になにがあったのか、何者かに痛めつけられたのは確かです。

さっきまでビデオショップの屋根の上にいたカラスは、昨日と同じカラスなのか？ そのカラスがカーちゃんを襲ったのか？ 私には見分けられません、カーちゃんは明らかにそのカラスがいなくなるのを待って公園に姿を見せたのです。

餌はその日は肉だけを持って来ていました。その肉を食べさせていると、以前カラスのことを話していた知人が公園に来ました。

私とその人と話しているあいだカーちゃんは周辺で遊び、その人がいなくなるとまたそばに来て、残りの肉を食べました。

肩に乗ったりして甘え、その後は公園内でいつまでも遊んでいました。スキップしたりして楽しそうですが、無残な姿です。

パーゴラの上に飛びあがるにもいつものように軽々とはいきません。

カーちゃんはこれから数えきれないほどつらい目にあって、生きていかなければならないのだと切なく思いながら、ずっとその姿を見ていました。それでも暗くなると電柱の上まで飛びあがって行きました。

下で見ていると方角を教えるように少し戻ってきて、再び西の空に飛んで行きました。

8月19日

昼間、何気なく外を見ると小雨の中、家の前の電線に親ガラスが2羽で止まっています。

家の周辺でカラスを見ると不安になります。親ガラスがカーちゃんの居場所が分からなくて我が家に様子を見に来ているように思うからです。

雨が止んだ夕方公園に行くと、カーちゃんはもう待っていて、入口のところまで迎えに来ました。

飛んできたカラスを見て通りがかりの人が驚いています。もう慣れてしまいましたが、確かに異様な光景だと思います。

いきさつを説明し、いつものように公園内に誘導し餌を食べさせました。

カーちゃんはかぼちゃを食べていましたが、私が水道の水を汲みに行っている間に、近くの家の屋根の上にパンをくわえて持って行きました。

さっき家に来ていた親らしい2羽のカラスが来て近くの電線に止まると、カーちゃんは向こうの家の影に姿を隠しました。

2羽のカラスはしばらくそのままでいましたが、やがてどこかに飛んで行きました。

その様子を見ていたものか、2羽のカラスがいなくなると再び飛んできて、自転車のところに来て肉を食べていましたが、少し大きめの肉をくわえて飛び立ちました。

飛び上がる力は依然弱く大変そうです。

肉はさっきパンを運んだのとは別の家の屋根に隠している様子です。それから電線に止まると、もう呼んでも反応せずそのままです。

公園の近くに住む人が来て、カーちゃんの羽が前より傷んでいるような気がする心配してくれました。

その時、止まっているカーちゃんのそばをオナガの群れが通過しました。が、そのうちの2羽が引き返してきて、1羽がぴったりとカーちゃんにはりつきました。

それはカーちゃんがまだ家にいたときにも見たことのある光景でした。この時も、カーちゃんは身動き一つしません。

オナガはカーちゃんのそばを離れず、しつこく品定めでもしている様子です。ずいぶん長い間そうしていました。

オナガは肉食です。カーちゃんは以前より飛ぶ力が弱くなっています。息づまる思いで見つめていました。

やがてオナガはあきらめたらしく、さっき群が去った方角に飛んで行きました。

人間に餌をもらったカーちゃんの体は同じ子供のカラスの中では大きいのですが、じっとしている限り、オナガには襲える相手かどうか判断がつかなかったのでしょうか。それが幸いしました。

恐ろしかったのか、あたりがすっかり暗くなるまでカーちゃんはそのままの姿勢でいましたが

、やがていつもより南寄りの山の方に飛んで行きました。

オナガが北西の方面に消えたので、安全を考えいつもより方角をずらしたもので思われました。

8月20日

昨日の餌が食べかけだったので午前中、公園に様子を見に行ってみました。食べ残したのは好物の卵焼きです。

肉を運んだまま、どうして再び餌を食べに来なかったのかを考えてみました。そして思い当たったことがあります。

カーちゃんは屋根に上がったとき、近づいてくるオナガの群れに気が付いたのでしょう。それで身動きするのをやめてやり過ごそうとしたのです。

あの時は無事でしたが、夜が明けた今日はどうなっているかがやはり気がかでした。

公園に行くといつものパーゴラの上にそれらしいカラスがいましたが、今まで聞いたこともない声で鳴いています。

てっきり別のカラスだと思いましたが、それはカーちゃん、私を見るといつもの声に戻って鳴きながら近寄ってきました。

あれからまた何かがあったのか、羽がいつそうボロボロになっています。

卵焼きを食べた後、フェンスに止まっていたのですが、南の方にカラスが数羽飛んでいるのを見ていたら、いつの間にか、どこかに行っていました。

夕方、かぼちゃ、ゆであずきなどを持って再び公園に行ってみました。カーちゃんはいつものように待っていて迎えてくれました。

パーゴラの下ベンチに、以前ワークシェアの話をした人が犬を連れて来ていて、カーちゃんの様子をおしえてくれました。パーゴラの上からその人に声をかけてきたそうです。

朝はビデオショップ前の道路を、チョンチョン歩いているのだそうです。

「お近くなんですか」と住まいのことを聞くと「あそこ」と指さす方に、モダンな二階建ての家が見えます。

ビデオショップ近くの公園からすぐの場所です。カーちゃんは私が来ないときでもこの周辺で過ごしているらしいことが分かりました。

「羽がボロボロになってしまっ」というと、以前よりもそう感じたとその人も言っていました。

こんな話をしながらも、私はカーちゃんから目を離すことはありません。

カーちゃんは公園北側の学童保育施設の屋根の上に乗って遊んでいました。

その人が犬を連れて公園を去り、私はしばらく屋根の上で遊ぶカーちゃんを見ていましたが、

どこかに飛んで行った様子なので帰ろうと思い公園の外に出ました。

カーちゃんが公園で私と会うよりも、もっと楽しい世界を見つけてくれるのはうれしい事です。

さびしいけれど私の願いはただ一つです。無事でいて！

自転車をこぎ出そうとしたとき柴犬を連れた男の人が通りかかり「カラスの人ですよね」と声をかけられました。

私が育てたカラスの赤ちゃんの話

- I ウッドデッキにいたカラスの赤ちゃん
- II カラスのきょうだいたちがやってきた
- III 畑で暮らすカーちゃん
- IV 畑で暮らすカーちゃん (2)
- V 公園のカーちゃん
- VI 『夕焼、小焼の あかとんぼ』

公園のカーちゃん

<http://p.booklog.jp/book/76179>

著者：石下郁子

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/thmo2535/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/76179>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/76179>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ